

上下水道局と健康福祉局で連携した取組 国土交通大臣賞ーグランプリ受賞が決定しました

堺市上下水道局がもつ資産を活用して、高齢者の健康増進を図る新たな広報の取組が、令和 5 年度国土交通大臣賞「循環のみち下水道賞」において、11 の受賞団体の中からグランプリを受賞することになりました。

堺市が「循環のみち下水道賞」を受賞するのは、平成 24 年度の「産官連携で創る都市の水循環～再生水利用の展開～」の取組が『水のみち部門』を、平成 27 年度の「すいちゃんを活用した双方向コミュニケーション広報」の取組が『広報部門』を、平成 28 年度の「熱源、水源、地域資源に下水再生水をフル活用」の取組がグランプリを受賞したことに続き 4 回目です。

1 受賞取組

介護予防とコミュニティ創出の鍵は??マンホールにあり!!

2 概要

高齢者の健康増進を図りながら上下水道事業に興味をもってもらうため、上下水道局と健康福祉局が連携するだけでなく、市内の商店街や文化観光施設（堺 アルフォンス・ミュシャ館、観光案内所、さかい利晶の杜、方違神社）にもご協力いただくことで、歩きながら堺市らしさを感じていただけるコースを設定したウォークラリーイベントです。

(別紙参照)

3 授賞式

令和 5 年 9 月 8 日 (金) 午後 1 時 15 分～午後 2 時

国土交通省中央合同庁舎 3 号館 10 階共用会議室 A (東京都千代田区霞が関 2-1-3)

4 授賞式出席者

森 功一 上下水道事業管理者

5 備考

「循環のみち下水道賞」とは、健全な水循環、資源・エネルギー循環を創出する「循環のみち下水道」のコンセプトに基づく優れた取組に対し、平成 20 年度から毎年表彰を行っているものです。

問 い 合 わ せ 先	担 当 課：上下水道局 経営企画室 危機管理・広報広聴担当 電 話：072-250-9208 ファックス：072-250-6600
----------------------------	---

グランプリ

介護予防とコミュニティ創出の鍵は?? マンホールにあり!!

堺市

受賞事例の概要

連携第1弾！堺まちなかマンホールウォーク

6月中旬から1カ月間実施

点在するデザインマンホール蓋を巡る3種類のウォーキングコース。279人が参加（平均年齢71.7歳、最高齢89歳）

PRポイント

① **既存資産**（デザインマンホール蓋）の活用

② 上下水道局の重要取組のひとつ
「**自助・共助**」の啓発も同時にPR



ゼロ予算で出来た!

PRキャラクター
マモルダー



熱中症予防に備蓄水の配布と啓発

備蓄水や携帯トイレの「上下水道防災セット」を抽選で贈呈

家庭内の飲料水備蓄80%が目標です

連携第2弾！！健活アプリ「アスマイル」のウォークラリー

10月から
継続中

スマートフォンのGPS 機能を活用した、上下水道ゆかりの地を巡るコース。中継地点を経由しゴールすればポイント獲得！

PRポイント

① コースは**上下水道局の資産・市の資産をフル活用**
組織の垣根を超え、商店街や文化施設を組み込むコース
で**都市魅力を発信**

② **アプリ機能をフル活用**し、歩きたくなる仕掛け



参加者もまち
Win-Win!

マスコットキャラクター
すいちゃん

歩数等の日々の健康
情報をアプリで管理

ポイントをためて
抽選で
ゲット
コンビニ
コーヒー
Pay♪

機能や特典に係る
市の負担なし

PRポイント!

健康増進に繋がる“歩く”と上下水道事業の“資産”をフルに活用したウォークラリーを“ICT等の新技術”も使って企画・実践し、庁内でも「効率的・効果的な事業実施」「商店街や文化施設を巻き込んだ都市魅力の発信」「職員の負担がない」「ゼロ予算」等と庁内でも評価されています。

ICT技術を使えば、ここが秀逸！

①スマホがもつ機能を使うため、ラリー地点の受付や説明に**人手が不要**

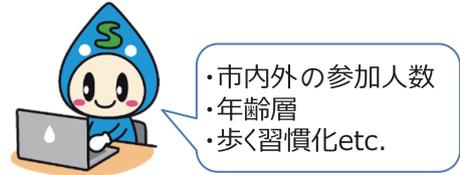


地点の説明と見どころを掲載

②スマホ操作でイベントが完結するため、その日の気分で参加できる**手軽さが売り**



③参加者の**分析&効果検証**が容易



部署横断で取り組むきっかけと、その成果

副市長をリーダーとする、高齢者の健康増進施策を考えるワーキンググループで、上下水道局が企画提案



企画をととして、健康福祉局と上下水道局の連携がスタート

①都市魅力の発信、歩く機会の創出、運動の習慣化に寄与



②健康福祉局、そして他部局との連携による**相乗効果**



取組の効果

毎月市内外から参加されており、コース各所から「人を呼び込む機会を創出してきてありがたい」と感謝の声をいただいています。また、参加者が好きなペースで歩けるため、密を避けられる他、友人等を誘い合って参加するなど社会交流の活性化や運動の習慣化にも寄与しています。さらに、取組をととして、企画の面白さだけにとらわれずに「市施策 (KPI) に紐づいた企画か?」等、考える習慣や、課員同士でアイデアを出し合う風土が醸成されました。

Key Person



堺市健康福祉局 係長 多賀井 眞紀

介護予防や健康に無関心だった方に事業に参加してもらう工夫が必要だと考えていたところ、この取組を行うことになりました。他局がもつ資産を活用することで、様々なチャンネルから健康増進へアプローチすることができました。

健康福祉局との連携により、本取組は健康志向の方へ上下水道事業に興味や関心をもってもらえるきっかけになりました。また、企画段階から、上下水道らしさと堺市らしさを失わないようにしたことで、局内の理解だけでなく他局・商店街・文化施設といった組織の垣根を超えて、継続的・長期的な企画が実現できました。



堺市上下水道局 主査 竹田 由実